

原 著

進行再発大腸癌に対する抗 EGFR 抗体の治療成績

澤 崎 翔¹⁾, 塩 澤 学¹⁾, 五代 天 偉¹⁾, 片 山 雄 介¹⁾,
沼 田 幸 司¹⁾, 沼 田 正 勝¹⁾, 樋 口 晃 生¹⁾, 利 野 靖²⁾,
益 田 宗 孝²⁾, 赤 池 信¹⁾

¹⁾ 神奈川県立がんセンター 消化器外科,

²⁾ 横浜市立大学 外科治療学

要 旨:

目 的: 当科における進行再発大腸癌に対する抗 EGFR 抗体の有用性を明らかにする。

対象と方法: 2009年1月から2012年9月までに抗 EGFR 抗体の投与を行った64例 (Cetuximab39例, Panitumumab25例) を対象とし, retrospective に治療成績を検討した。

結 果: 男性36例, 女性28例. 投与 line は1次治療24例, 2次14例, 3次以降26例であった. 抗 EGFR 抗体の効果 (K-ras 野生型のみ) は奏効率34.7%, 病勢コントロール率61.2%, 無増悪生存期間6.0か月であった. Cetuximab と Panitumumab で比較すると, 奏効率は37.5%, 32%, 病勢コントロール率は54.2%, 68%, 無増悪生存期間は6.0か月, 8.0か月と両群で有意差はなかった ($p = 0.96$).

結 語: 抗 EGFR 抗体は, 奏効率は低いが病勢コントロール率および安全性は比較的良好であった。

Key words: 進行再発大腸癌 (metastatic colorectal cancer), 抗 EGFR 抗体 (anti-EGFR antibody), セツキシマブ (cetuximab), パニツムマブ (panitumumab)